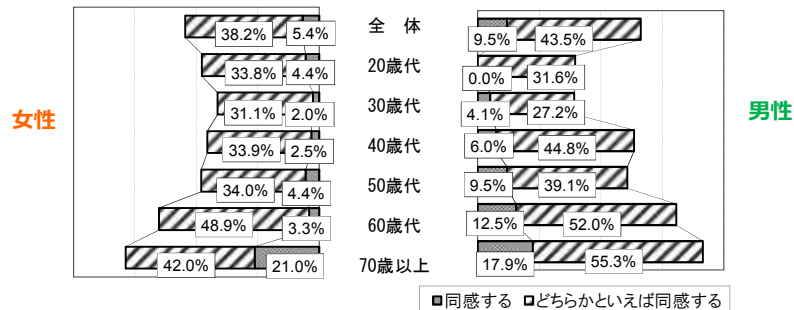


### 1 「男性にとっての男女共同参画」を考える背景

#### 固定的性別役割分担意識が男性により強く残っている

「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方について（男女別・年代別【平成21年度滋賀県】）  
〈同感する・どちらかといえば同感すると回答した割合〉



### 2 男性へのヒアリング調査結果からうかがえる状況

- 男性は、男性に期待されている行動や固定的な性別役割を当然のこととして受け止める傾向がみられる。
- 男性は、「男女共同参画は女性のためのもので自分には関係がない」と認識している状況がうかがえる。
- 男女共同参画が進むことが男性にとっても良いものであるとはとらえていない状況がうかがえる。
- 男性の行動や意識が世代間で違う。

### 3 男性の行動と意識の現状

#### (1) 男性の行動について

- 男性は1日の中で仕事に費やす時間が長くなっており、そのことが家事、育児、介護、地域活動といった仕事以外の活動に関わっていない状況をつくっていると考えられる。
- 多くの時間を仕事に費やす日常生活の中で、20歳代から50歳代までの現役世代を中心に、悩みや困りごと、男もつらいと思うことを抱えている割合が高く、その内容は仕事に関するものが大きなウエイトを占めている状況がうかがえる。
- 悩みや困りごとがある際に男性が相談する相手としては、「配偶者」が最も多く、4割を超えているが、「相談しなかった」が3割弱を占めており、配偶者以外の身近な人には相談しない傾向がみられる。
- 男性が悩みや困りごとを誰かに相談する場合、相談しやすい方法や体制として専門家による相談の希望が多い状況であるが、相談内容に応じて、希望する方法や体制に違いがみられる。

#### (2) 男性の意識について

- 家族を経済的に支える役割は男性にあると考える傾向があり、仕事の責任を果たして社会的に評価されたいという志向があることがうかがえる。
- 経済的な役割、主導的な役割、私的な感情の抑制などについて、『男性はこうあるべき』という固定的な性別役割分担意識を肯定的に捉える傾向がみられる。
- こうした男性の役割分担やあるべき姿に対する考え方は、女性より男性の方により強く表れている場合がある。

### 4 男性の固定的な性別役割分担意識に影響を及ぼすもの

#### (1) 子どもの生き方に対する親の期待

- 自分の子どもの生き方に対する期待については、経済的な役割が果たせることや社会的に評価される生き方を男の子に期待する割合が多く、家事ができることや家族等と円満に暮らすことについては、女の子に期待する割合が多くなっており、子どもの性別により、親が子どもに期待する内容が異なっている。

#### (2) 固定的な性別役割分担意識に関する女性の意識

- 女性は、経済的な役割や仕事で業績が評価されることを男性に期待する意識が高い一方、家事や子育ては女性がすべきと考える女性も一定の割合でみられる。そうした女性の意識が、男性の固定的な性別役割分担意識に影響を及ぼす場合があると考えられる。

### 5 変わり始めている男性の意識

#### (1) 若い世代は固定的な性別役割分担意識にとらわれない傾向がある

- 若い世代は固定的な性別役割分担意識にとらわれない傾向がみられ、家庭における男性の参画について、実践への意識もうかがえる。
- 特に、20歳代は学校で学習した経験が他の年齢層に比べて突出して多いことから、若い世代の男女共同参画意識を育むために、学校における学習が重要であると考えられる。一方、どの世代も、男女ともにマスコミから情報を得ている状況がうかがえる。

#### (2) 様々な経験が男性の意識に変化や充実感をもたらす

- 参加するきっかけは「特になし」が最も多いが、地域活動に参加している男性は、地域の様々な人とのつながりや地域社会への貢献など、良い変化や効果があったと受け止めている傾向がうかがえる。
- 中学生以下の子どもがいる男性は、子育てを通じて「子育ては自分にとってプラスだ」「毎日が充実している」「子育てが楽しい」と感じている男性がうかがえる。
- こうしたことから、仕事以外の場面で、男性自身が「成長できた」「充実している」と実感できる機会や経験が、男性の意識に変化や充実感をもたらすきっかけになると考えられる。

### 6 変わり始めた個人の意識 vs なかなか変わらない「世間」

- 固定的な性別役割分担意識については、個人の考え以上に、世間には固定的な性別役割分担意識があると思われている状況がうかがえる。
- こうした意識の背景には、固定的な性別役割分担の実態が、身近なところに残っていることが影響していると考えられる。
- 社会の実態やしくみと意識（個人の考え・世間の認識）は深く関係していることから、実態を変えるための制度や環境の整備とともに、意識への働きかけが重要。

### 7 施策展開の方向性

#### 1. 子どもや若者が男女共同参画を体験的に理解する機会の充実

##### (1) 多様な生き方について考える親子のコミュニケーションを充実させる

- 男女共同参画の実現により、子どもたちが性別にとらわれず個性と能力を発揮できるようになるという理解を、親自身が深く、多様な生き方について話し合う機会を積極的につくる。

##### (2) 多様な生き方や働き方について学べる体験・実習を増やす

- 家事・育児・介護等の体験・実習の機会を増やす。
- 将来の生き方や働き方を考える時期に、男女ともに、固定的な性別役割分担にとらわれない自分らしいキャリア（仕事）とライフ（生活）をイメージできる体験等の機会の提供。

#### 2. 男性の多様な生き方を応援するコミュニケーションの場づくり

##### (1) 男女の生き方やそれぞれの思いを語り合う機会を増やす

- 夫婦間、地域の集まり、職場内などの身近な場面で、男女の生き方やそれぞれの思いについて率直に語り合う機会を増やす。

##### (2) 男性の家庭や地域での充実感を「見える化」する

- 男性が固定的な性別役割分担意識にとらわれず生き生きと暮らしている姿やプラス面を積極的に伝える。

##### (3) 男性の多様な生き方を応援するキーパーソンを増やす

- ワーク・ライフ・バランスの推進等について、職場や地域におけるリーダー層がキーパーソンの役割を担うための研修等の実施。

#### 3. 「男性にとっての男女共同参画」につながる相談窓口へ

##### (1) 男性が相談しやすい雰囲気をつくる

- 男性が悩みを打ち明けることへの抵抗感をなくす啓発、相談窓口等の周知。

##### (2) 相談員のスキルアップ・相談の専門家の連携を進める

男女が共に輝いて生きることが  
できる滋賀へ

